■オチタアトノミコ

　大量に発生した悪霊。それらに憑かれた者たちに襲われた一子と祥子は、勤める会社の屋上にまで追い込まれてしまう。
　屋上に出たことで騒ぎを外部の者にも知られ、正常な者も美女が襲われているとなり一子たちの行く末に注目の視線を注ぐ。
　陵辱を期待する大勢に携帯端末などで撮影される中、ついに男たちが美人巫女の身体に手を伸ばす。

「くっ……離せ！」
「この……！」

　魔を祓う力で抵抗するが、多勢に無勢。押し切られて二人とも腕を掴まれ、抗うことすらできなくなる。
　魔物の目的は快楽と復讐、そして巫女の力を奪うための陵辱。
　巫女は処女を喪えば霊的な力をほぼ無くしてしまう。そのため今まで一子たちは何度も処女を狙われていた。
　そしてとうとう、魔物の手が巫女の秘部に届きかけるのだが……

「っ……こんなことをしても無駄だ。このような事態のために結界を張ってある。私の処女には触れられん……！」

　一子は男に宿った魔物に対し睨み付ける。
　最悪の事態に備え、一子たちも対策をとっていた。
　秘部には結界を張ってあり、魔物は触れられないようになっているのだ。
　だがそれを知っていたかのように、男たちは下衆な笑みを浮かべる。

【ああ、マンコを守る間抜けな結界もあるみたいだなぁ……だが問題ない。その結界を破ればいいんだ】

　言うと、男……魔物も霊的な力、淫気を展開する。
　すると巫女の力が侵蝕され、更に一子たちの身体が甘い疼きに襲われる。

【淫気で身体を侵蝕させてもらった。今イカせれば、その結界は無力化……
　ついでに、二度と抜け出せなくなる快楽のサービスが付くぜ。
　ま、失敗すればこっちが成仏するけど】
「……！」

　リスクが伴うとはいえ、結界の対策まで周到に用意していた魔物たち。
　早くも勝ち誇り、顔ほどもある豊満な一子の胸を巫女装束越しに揉みしだく。

「……要は、果てなければいいのだろう？」
「淫気とやらで私たちを好きにできると思ったら大違いよ！」

　祥子も乳尻に手を付けられながらも強気な眼差しを向ける。

巫女が魔物の力に屈し、快楽に堕ちて処女を散らすなどあってはならない。
実際、淫気の影響で身体に疼きが発生してはいるが、魔物の乱暴な愛撫で快楽を感じるとは思えない。
快楽、そして魔物には屈さない――巫女の矜持と誇りに賭けて、二人は最後まで耐え抜くことを覚悟するのだった。

（この程度の力で、快楽など感じるものか……！）
（卑劣な魔物なんかに……私たちは負けない！）

――……
――――……

もみもみもみもみっ♥　くりっ♥　びぃんっ♥
「ふっ♥　ほ♥　おぉぅっ♥」
「んあっ♥　あ♥　は……ぁ……っ♥」
【バカでかいくせに敏感な乳しやがって……やっぱり乳首が弱点か】
【見た目通りのとんだエロ巫女だなぁ？】
（こ♥　これが淫気♥　っ……強い……♥）
（そんな♥　魔物の力がこんなに強力だなんて♥）

二人の美女巫女はは、共に胸を責められ喘いでいた。
一子は乳首を重点的に、祥子は陰核も同時に責められている。
淫気の影響で敏感化した牝突起は虐められればあっさりと発情し、多大な快楽を生んで牝の本能を追い込ませてくる。
想像以上に魔物の力が強い、というのもあるが……発情の原因は、巫女たちの方にも少なからずあった。
何度も性犯罪に関わっては処女を狙われてきた二人。
精神は拒めても、肉体は度重なる『性交の機会』を経て雄に餓えていた。
心が望まぬ行為であろうと、容易に発情しやすい状態になっていたのだ。

【イッちまうんだろ？　遠慮せずイッちまえよっ！】
「くふっ♥♥　ふぅ――っ♥♥」
（いかん……♥♥　このままでは♥♥　達してしまう♥♥　そうなれば……♥♥）
「はっ♥♥　は♥♥　あ♥♥　あ……♥♥」
（処女を……喪って……♥♥　東京が……危険なことに……っ♥♥）

二人の処女が奪われることは、ただ屈辱を味わわされるだけに留まらない。
東京における魔物からの守備に穴が開き、魔物による被害が増大する未来も招いてしまう。
だからこそ二人は必死に堪えていたのだが……悲壮な決意も自身の肉体に裏切られ、
いよいよ絶頂が近付いてきた。

「ふ――――っ♥♥　ふぅぅ――――っ♥♥」
「は……♥♥　あ♥♥　あっ♥♥　あ……っっ♥♥」

【我慢してんじゃねえっ！】
【おらっイけっ！　イけっ！】
もみもみもみもみもみっ♥　ぎゅむっ♥　くりっ♥　ぎゅりぃぃっ♥
「おっ♥♥　お♥♥　お♥♥　おぉほぉおぉおぉおぉおぉっ♥♥♥」
「あっ♥♥　あ♥♥　あんっ♥♥　んはぁぁぁぁぁぁっ♥♥♥」

溜め込んだ分の反動か、いざ決壊すると大きな仰け反りと叫びで派手な反応を見せてしまう。
今まで蓄積された牝の本能が淫潮となって噴き出し、誰の目から見ても明らかな絶頂が男たちの前に晒される。

「お……♥♥♥　おぉぉ……♥♥♥」
「あは♥♥♥　はぁぁ……ん♥♥♥」

悔しさと屈辱の涙を浮かべ、しかし眼と唇は甘く蕩けて官能的な表情となった二人。
共に腰を震わせ、結界が無くなってなお抗うが、
装束を捲り上げられて濡れそぼったショーツが露わになる。
男が愛液の漏れ具合をなじりながら股間部をズラし、外気に触れた秘裂に巨大な肉棒を宛がい……

「やめろっ♥♥　離せ……あ……っ♥♥」
「やめなさい……♥♥　そこは……それだけは……♥♥」
ずっぼぉぉっ♥♥
「おぉぉおぉおぉおぉおぉ♥♥♥」
「あぁぁぁぁぁぁぁぁっっ♥♥♥」

遂に、何があろうと守り抜いてきた処女膜を破られる。
破瓜の痛みも鮮血も愛液に溶け消え、純粋な肉悦が最奥に叩き込まれる。

「お♥♥♥　お……っ♥♥♥」
「は……あ♥♥♥　あ……へぇぇ……♥♥♥」
【へへ……とうとうブチ込んでやった……
どうだ？　使命から解放されて、念願のチンポを咥えた気分は？】
【気持ち良すぎて声も出ないか？】
「念願……だと……♥♥　だ……だれ、が……♥♥」
「こんなもの♥♥　少しも……気持ち良く♥♥なんかっ♥♥」
ずぼっ♥　ぱんっぱんっぱんっぱんっ♥
「お♥♥　おほっ♥♥　おぉぉぉ――――っ♥♥♥」
「あひっ♥♥　はっひぃぃぃぃっ♥♥♥」
【喘ぎまくってんじゃねえか！】
【最初からこうされたかったんだろエロ巫女がっ！】

強がってみせるも、激しい肉突きを受けて即座に牝声が出てしまう。

息が詰まるほどの圧倒的な快楽。
初めて交わいを経験する巫女が耐えられるはずもなく、前戯、挿入時に続き三度目の絶頂に昇らされる。
牝肉を締めつけ、淫らに喘ぐ美人巫女。
彼女たちを陵辱する嗜虐の興奮が男たちの絶頂も導き、射精に向けて更に腰の動きが速められる。

【おらっ出すぞ！　中にブチまけてやるっ！】
【魔物のチンポで孕めっエロ巫女っ！】
ぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱんっ♥♥
「やめろぉおぉおぉおぉおぉおぉ♥♥　中はっ♥♥　中にはっ……出すなぁあぁあぁあぁ♥♥」
「あ〜〜っ♥♥　あぁ〜〜〜〜っ♥♥　ダメぇぇっ♥♥　中にはぁぁぁぁっ♥♥」
ドクゥッ♥♥　ドビュルルルルルルルルルッ♥♥
「ふっっほぉおぉおぉおぉおぉおぉおぉおぉおぉおぉ♥♥♥」
「あっへぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇっっ♥♥♥」

熱い迸りを胎内に感じた瞬間、その凄まじい快感に喉の奥から絶叫を搾り上げさせられる。
爆乳を激しく振り乱し、二人は同時に膣内射精絶頂。
あろうことか、最悪以上の陵辱で最大の快感を得てしまったのだ。
大勢の、更にカメラの前で痴態を晒した新橋の巫女と日本橋の巫女。
だが絶望感に浸る暇はなく、更なる輪姦地獄にどっぷりと浸からされていく……

体験版はここまでです。続きは製品版で！